

(様式1)

北海道大野農業高等学校の行動計画(グローバル・アグリハイスクール宣言 Part II)

全国の農業高校の行動計画		学校において令和8年度に重点化する取組及び具体的方策		
5つのミッション 8つの行動計画		行動計画の中で重点化する取組	目標達成 期 間	具体的方策
I グローバル教育で 人材を育てる学校	1 「生徒一人ひとりを一層輝かせ成長させる教育」を行います。	農業クラブ活動や資格取得を活性化・充実させ、主体的学習意欲を高め、自己実現を目指す。	A	農業クラブ活動や資格取得により自信を持たせ、自己肯定感を高めさせる。
	2 「世界と日本をつなぐグローバル教育」を行います。	GAPやHACCP、みどりの食料システム戦略を意識させ、世界を意識した農業を感じられるような農場の充実を図る。	B	実習で常に世界を意識できるように掲示教育の充実を図る。
II 地域社会・産業に 寄与する学校	3 「地域農業の生産を支える教育」を行います。	GAPを理解し、地域の特産物を広められるような人材育成を目指す。	B	プロジェクトなどで地域の特産物を取り上げ、地域農業を意識させる教育を実施する。
	4 「地域の農業関連産業や6次産業化に寄与する教育」を行います。	6次産業化を意識し、GAP・HACCPなど学科の特徴を生かし農業の魅力を伝え農業後継者や関連産業従事者の育成を図る。	B	6次産業化された農業を支える職業を理解し、生産者はもちろん、関連産業への進路を実現させる。
III 地球環境を 守り創造する学校	5 「地球環境を守り、創造する教育」を行います。	GAP・SDGs、みどりの食料システム戦略を通して国土保全・地球環境に興味関心を持たせ、農業の面から貢献する態度を育てる。	B	GAPやSDGs、みどりの食料システム戦略を意識できる実習を実施し、それらに取り組む大切さを理解させる。
	6 「地域資源を活用し、地域振興の拠点となる教育」を行います。	地域特産物を用いた食育教育を充実させ、農と食の重要性を幅広い年代に伝える。	A	学校関係者だけでなく、一般の方もターゲットにした。食農教育などを実施する。
IV 拠点となる学校の	7 「Society5.0の時代に応じた教育」を行います。	ICTを用いた学習を充実させ、これからの時代に対応できる農業観を持った人材を育成する。	B	企業や農業改良普及センター・北斗市などの連携を強化し、ICTを活用しての地域農業課題解決を目指す。
V 推進する学校	8 「地域防災を推進する教育」を行います。	安全教育を徹底し、地域防災を意識した危機管理能力の向上を目指す。	A	農業の多面的機能を理解するとともに、GAP教育の一環として学校農場内のリスク管理を行う。